Ｎｏ．３２４【２０１８年９月２１日配信】
「内務卿」大久保利通の謎（担当：工藤）

こんにちは！　室長の工藤です。

明治４年（1971）９月に「県都」青森が誕生する少し前…

この年７月 14 日の廃藩置県で、それまでの「藩」が消滅して新たに「府県」が設置されます。青森県域には弘前県、八戸県など５県が誕生します。ここで八戸県の太田広城と斗南県の広沢安任は、弘前県にほかの４件を合併させる案を「内務卿」大久保利通に建議し、結果として北海道の館県を含めた６県が合併して新・弘前県が誕生します。そして、９月５日に新政府は、県の指導者のひとりとして野田豁通（のだひろみち）を弘前県大参事に任命します。野田は着任前に大蔵省に伺書を提出し、県庁を弘前から青森に移転するよう主張します。この主張が受け入れられたのか、９月 23 日県庁が青森町に移転することになり、県名も弘前県から青森県となりました。こうして「県都」青森は誕生したのです。

と、ここまでは、通説的な歴史叙述をなぞってみました。ただ、漠然とした疑問としてかねてから「どうして野田は内務省ではなく大蔵省に伺書を提出したのだろう」と思っていました。漠然と…だったので調べてみることを怠っていました。

ところが先日、中学生向けにこの話を書く機会を得た際に、子どもたちに馴染みのないであろう「内務卿」「大蔵省」に注釈を入れるために改めて調べてみたらなんと！…内政の中心を担う内務省はこの時点ではまだ存在しておらず、したがって「内務卿」というポストもないのです。当時、内政を担っていたのは大蔵省で、財政とあわせて強大な権限を持っており、大久保利通はもちろん内務卿ではなく大蔵卿でした。

こうして、私の疑問はあっけなく解決しました。では、どうして大久保利通は、当時存在していない「内務卿」と叙述されてきたのでしょうか。

大久保利通
（『近世名士写真』其１　1935 年　近世名士写真頒布会
国立国会図書館ウェブサイトより）

そこで、史料集を繰ってみたところ、太田と広沢による弘前県への合併案に関する資料に「大久保内務卿」という文言がありました。典拠は昭和元年（1926）に刊行の『青森県史』で、原典は「八戸藩末ノ偉材太田広城」という、太田広城の伝記体の記録です。これは、少なくとも明治8年以降に書かれたものと思われます。一方、内務省は明治6年11月に設置され、大久保が初代の内務卿となります。ですから、「大久保内務卿」とはこの記録が書かれた当時の大久保を表現したもので、明治4年時点のものではなかったのです。しかし、青森県の歴史叙述においては、この表現にひきずられ「内務卿大久保利通」と表記し続けてきたのです。

改めて、歴史史料は丁寧に読まなければならないと…教訓となるエピソードでした。